水のひろば
Water Square

苦難を解決して未来を拓く
～ピンチをチャンスに変えるまちづくり～

京都府亀岡市長　桂川　孝裕

はじめに

亀岡市は、京都府のほぼ中央部に位置し、東は京都市、西及び南は大阪府の豊能郡、茨木市、高槻市と接する“緑”にあふれたまちです。

この亀岡盆地の中央を北から東に貫流する保津川（行政上の名称は桂川であり、大堰川（おおいがわ）とも呼ばれている）の流れは広大な山野を潤し、豊かな耕地を育み、古くから丹波と京の都を結ぶ貴重な水路としても活用され、流域の文化形成に大きく寄与してきました。

また、保津渓谷の急流を下る「保津川下り」や渓谷の四季が堪能できる「トロッコ列車」は、京都観光の人気ポイントとなっています。

水害との闘い

一方、保津川が亀岡市から京都市に流れ込む保津渓谷は、その入り口が狭いため、大雨が降ると行き場を失った大量の川の水が逆流し、亀岡の地は度々大水害に見舞われるなど、保津川は人々を悩ます暴れ川でもあり、水害の根絶は亀岡市民の長年の悲願であります。

このため、平成10年に保津川の上流にある南丹市に「日吉ダム」が建設され運用を開始、市内の河道整備事業も京都府によって大規模に進められています。

保津渓谷を嵐山まで下る「保津川下り」

しかし、平成25年の台風第18号では日吉ダム管理所の懸命な防災操作により保津川の水位を約1.5ｍも低減したものの、昭和47年以来40年ぶりに大規模な水害に見舞われました。

更なる抜本的な河川改修が国・府により早期に実施されることを切に願うとともに、水害の根絶をめざして私も全力で取り組むことを心に決めたところです。

亀岡盆地を雄大に流れる保津川

11基の山鉾巡行でにぎわう亀岡祭（10月25日）

ピンチをチャンスに

「京の都を守る天然のダム」などと比喩されてきた亀岡の地が今、京都府の中で最も光り輝くまちと呼ばれています。

亀岡市の玄関口であるＪＲ亀岡駅の北側に京都府が収容人員２万～２万５千人規模の専用球技場「京都スタジアム（仮称）」の建設を計画しているほか、大阪市と亀岡市を結ぶ幹線道路の整備など都市基盤の整備も計画されており、京都府を南北に縦断する「京都縦貫自動車道の全線開通」とも相まって、まさに「亀岡の夜明け」が到来した感があります。

このチャンスを最大限に生かし、市民力で未来を拓くため、「選ばれるまち・住み続けたいまち」の実現に全力を傾注して取り組みたいと考えています。

母なる保津川

私は、平成27年11月に第７代亀岡市長に就任したばかりですが、市職員・市議会議員そして府議会議員時代を通じて、保津川の環境保全とまちづくりを考えるＮＰＯ法人「プロジェクト保津川」の活動に参加して来ました。

角倉了以（すみのくらりょうい）が開削した保津川は舟運をはじめ、アユモドキに代表される川魚、昆虫や植物の宝庫であり、保津川畔から眺める山々や緑の大地は、市民のみならず訪れる人々に安らぎとふるさと感を与えてくれます。

この自然を守り、次世代に引き継ぐとともに調和のとれたまちづくりを推進することが市政を担うもの、そして市民に課せられた責務であると考えています。

京都スタジアム（仮称）
※イメージ図であり、今後変更されることもあります。